

藤沢市社会教育委員会議
令和2年度10月定例会

議 事 録

日 時 2020年(令和2年)10月5日(月)
場 所 藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

令和2年度藤沢市社会教育委員会議10月定例会

日時：2020年（令和2年）10月5日（月）

午前10時から正午まで

場所：藤沢市朝日町1番地の1

藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

・次期「生涯学習ふじさわプラン」について

・令和2年度第2回神奈川県社会教育委員連絡協議会理事会の情報交換議題について

4 報告

5 その他

6 閉会

(出席委員)

川野佐一郎・稲川由佳・長田祥男・窪島義浩・越美紀・瀬戸内恵・高山康人・西尾愛
西村雅代・平野まり・本多清弘・三宅裕子・山内千永美・山田勉

(事務局)

齋藤参事・井出主幹・田高課長補佐・渡邊主任

***** 午前10時02分 開会 *****

川野議長 　　ただいまから社会教育委員会議10月定例会を開催します。
事務局から本日の欠席委員の確認をお願いします。

事務局 　　藤沢市社会教育委員会議規則第4条によりまして、審議会の成立要件として委員の過半数以上の出席が必要とされております。委員定数15名に対して本日の出席者は14名ということで、会議が成立しますことをご報告申し上げます。

川野議長 　　傍聴者の確認をお願いします。

事務局 　　本日傍聴者はありません。

川野議長 　　資料の確認をお願いします。

事務局 　　(配付資料の確認)

川野議長 　　議事に入る前に、前回の8月定例会の議事録について確認をします。何か修正等ございますか。特段なければ確認をしたということで進めます。

　　議事に入りますが、今日はグループワークの時間を取りたいと思いますので、早めに進行いたします。

　　今回からは次期プランの策定と現行プランの進捗管理と同時並行で進めていくのでお願いします。計画をつくるときには市民のニーズ調査が大事になります。生涯学習について藤沢市民はどのようなことを考えているのかということを、いろいろな方法で把握し、それに基づいて計画を策定していきますが、ニーズについては、今あるものを利用し、現行プランとの継続性を持たせながら、状況の変化や他市の例、国全体の考え方を参考にして意見を取りまとめていきたいと考えています。

　　そして、今日グループワークを行うこととしたのは、全体協議では聞きづらいところもあるかと思ったため、ざっくばらんに意見交換ができるようにするためです。自分たちの団体ではこういう活動をしているとか、こういうこ

とで悩んでいる、ということを紹介していただきながら、身近なところから発言をしてもらいたいと思います。

基本的には、私は議長という立場で皆さんの意見をまとめて、事務局との話し合いに臨まなければいけないと思っています。皆さんの意見を聞きながら、次期プランの原案づくりに取り入れていきたいと思っています。起草委員会、あるいは小委員会や計画策定委員会をつくらないということにしたいと思っています、なるべく私は皆さんの意見をまとめていくことに徹して進めていきたいと思っています。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

今回は現行プランの昨年度事業の進捗管理の評価をしていただきました。今日は、再来年から始まる次期プランの原案をつくっていくということで、二つの内容を並行して進めることから、改めて今後のスケジュールの説明をさせていただきます。

資料No. 2をご覧ください。こちらは前回の定例会から今後、来年度にかけての定例会の開催月の予定を記載しています。また、それぞれの定例会の主な議題等として、現行プランの進捗管理と次期プランの策定にどのように取り組んでいくのかということをお示しさせていただきました。現行プランの進捗管理につきましては、年内で評価の部分まで終わらせていく予定で考えております。現在、皆様に9月末までに提出をお願いしていますが、抽出事業に関する質問・意見シートの取りまとめを行っています。今後、各事業担当課に投げかけて、次回の定例会で、各課からの回答をお示しさせていただき、ヒアリングを行うグループ分けをしていきたいと思っています。

次期プランの策定につきましては、皆様それぞれの活動現場やお立場で生涯学習・社会教育活動に携わっていただいていると思いますが、今後、社会の変化やコロナの関係といった状況を踏まえて、今後の藤沢市の学びをどのようにしていくのかということや、それぞれの課題認識、例えばこうしたものが足りないのではないのかということや、いい取組だからもっと伸ばしていきたい、というようなこともあると思いますので、今回は今後の藤沢市の学びに関するキーワードを皆様に挙げていただく回にしたいと思います。

社会教育委員の職務については7月定例会でご説明をさせていただきましたが、社会教育に関する計画の策定と調査研究の実施の2つが大きな柱になります。次期プランのことを考えたときに、現行プランを大幅に変えていくのかどうかということも一つの視点としてありますが、議長、副議長との打合せの中で、現行プランに掲げる理念や目標は、時代や社会は変わっても、どの時代においても大切なものとして続いていると考えられる一方、それに対する現状の達成度がどうなのかということや、社会が変化している中で、変わらなくていいのかということも視点としてあるので、現行

プランをベースに据えつつ、新しい要素をプラスしていく方向で考えるという話をしております。

資料に、来年度の6月に提言の提出と記載していますが、ここが一つのゴールとお考えいただければと思います。ただ、提言というと、大層なものをまとめなくてはいけないのかと感じられるかと思います。現行プランについては、プランの枠組みから変えていくという大がかりな作業であったこともあり、提言をそのままプランの一部とした経緯があります。今回は現行プランの骨格を引き続き生かしていくことを考えており、プラスアルファする部分を皆様にお考えとしてまとめていただくことになるとと思いますので、まとめたものを事務局が引き受けて、中身を文章化、図式化していくという作業になります。そのため、提言は、次期プランの肉となる部分のキーワードを皆様にまとめていただき、来年6月の提出でゴールとなります。

これから行うグループワークで挙げていただいた意見を事務局でまとめ、今後の定例会で確認・修正を行いながら、作業を繰り返していくということになります。決め打ちで承認をいただくというだけの場ではなく、皆様の意見を十分に反映させながら進めていきたいと思っております。

作業いただくことは多いかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

資料No. 1は、次期プランを考えるに当たって参考となる事項を幾つかピックアップしてまとめた資料です。

最初に、文部科学省の中央教育審議会生涯学習分科会が出している議論の整理についてですが、これは期ごとに出しているもので、今の日本の社会教育、生涯学習についての国の考え方をまとめたものです。生涯学習や社会教育の理念は長年不変ですが、その時代のエッセンスを加えています。

まず、国が大きく出している考えとしては、「生涯学習・社会教育は、教育面だけでなく住民の福祉、健康や産業の振興、地域の活性化につながるという認識を多くの人に持ってもらう」ということです。それから、「生涯学習・社会教育は、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を持つものであり、その要となるのが、学びを通じた住民相互の『つながり』である」ということで、今回、この議論の整理の中で何度も出てくる言葉が「つながり」で、これは学校教育も同じかもしれませんが、学びを通じたつながりをつくらうというのが10期のテーマになっています。

その中で出てきているキーワードが、まず、人生100年時代です。ライフシフトという言葉ももう大分なじんできています。人生50年時代だったものが、もはや100年となり、一生を通じて学び続けることが必要ということをして社会教育においても言っています。学ぶことが、健康寿命の延伸であるとか、高齢者の地域における孤立を防ぐことになる、ということがこの中に書かれています。

それから、これまでは学校に行って勉強しました、就職しました、そして

退職しましたという3ステージ型が主流で来たわけですが、いつ学ぶのか、いつ働くのか、もはや引退もないというような形で、今の生き方は人生100年時代と絡めて、マルチステージ型になっているということが徐々に浸透してきています。例えば1つの会社で長く働くのではなく、いろいろなところで働き、様々な仕事に就く人が増えるだろうから、キャリアを活性化する学びの場が必要だということも国は言っています。

そしてSociety5.0についてですが、基本、中心となっているのは、ICTやAIのことだと捉えております。資料に図を入れておりますが、いろいろなことが便利になって、様々な情報が入ってくる、そういったものが全てつながって整理され、より分かりやすくなるということが示されています。このあたりは、今回のコロナ禍とも併せて、テクノロジーの進展により、学びのあり方が大きく変わっていくと思っております。

学校については、オンライン学習に関することが今回の議会でも多く取り上げられていて、子どもたちが学校で学ぶのはもちろんだが、どれだけいろいろな情報を子どもたちに伝えられるか、という考え方にシフトチェンジしているのではないかと質問が出ておりました。子ども時代から学びのあり方が大きく変わっていく中で、大人ももはや今までどおりの学びでいいのかを考えていく必要があるということが、コロナ禍で如実になったのではないかと思っております。

あとは、SDGsの考え方が藤沢でもあらゆる計画に取り込まれるようになっていきます。教育に一番近い考え方が、国際目標4「質の高い教育をみんなに」です。この目標は、インクルーシブ、包摂的な社会と絡めて、全ての子どもから大人まで公平に学ぶ、そういった機会を提供するというところで、藤沢としても、当然このことは入れていかねばならないだろうと思っております。

それから、社会に開かれた教育課程では、子ども・若者が偏差値教育ではなく、社会課題の解決に主体的に取り組むような教育課程をつくっていくべきだということ、また、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を進めて、地域の中の学校に立ち返るべきではないかということも載っております。

あとは、今までも使われてきている言葉ですが、相互のつながりの形成であるとか、コーディネーター人材の育成等、人と人をつなげるために、社会教育ができることが繰り返し出てきています。

それから、命を守る学びについては、全ての人が命を守るということはどういうことなのかを学ぶべきだ、という視点も必要と指摘しています。

次のページをご覧ください。それでは藤沢市としては、そうした国の考えをどのように総合計画の中で取り込んでいるのかを記載させていただいております。生涯学習ふじさわプランは、市の総合計画となる藤沢市総合指針に基づいており、現在、この指針の見直しを行っておりまして、来年度から新しい指針となります。まちづくりコンセプトというものを新たに追加

する方向で進んでいて、「サステイナブル藤沢」「スマート藤沢」「インクルーシブ藤沢」の3つが示されています。

今回、この指針の見直しに当たって、さまざまな調査やアンケート等を行っており、アンケートのほうでは、「生涯学習の機会や場の提供について、皆さん満足していますか」という問いがあり、多少の変動はありますけれども、2割ぐらいの方しか満足していないという結果がここ数年出ていて、これをどう捉えるかということも次期プランに反映する必要があると思います。

それから、2040年を見据えた長期課題ということで、生涯学習部では歴史的建造物の保存、文化芸術の継承、スポーツ環境の充実、それから図書館の4つが挙がっています。また、2040年を見据えた藤沢に関するアンケートも行っており、非常に文化度が高いという意見が多い一方、なるべく若い人に今後支えてもらいたい、あるいは若い人と高齢者が交流をしなければいけないといった、若者に頑張ってもらいたいという思いを持っている方が多いということも見えてきました。

次に、第3期藤沢市教育振興基本計画ですが、基本方針に生涯学習の項目立てをしておりまして、そこでも人生100年時代ということを柱建てしています。

次に、他の自治体はどのような視点で生涯学習計画を策定しているかを確認していただくために、令和に入って新たに策定した3市をピックアップしました。どれもコロナ禍になる前の令和2年3月に策定しているので、どこまで参考になるかはわかりませんが、今日的なキーワードを取り込んでつくっている計画として、参考に皆様にお示しさせていただきます。各市のホームページには計画の全編が掲載されておりますので、ご覧いただければと思います。

以上、資料の説明をさせていただきましたが、プラン2021のときには全くなかった状況が出てきており、我々はその部分を次期プランに込めていかななくてはならないと思っています。ですので、皆様の実践等を含めて、将来の藤沢のために、こういうことは生涯学習、社会教育で入れていかないといけないということがありましたら、今日はまずその第一段階ということで、ざっくばらんにお話しいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

川野議長

今の説明の中で、質問等あればお願いします。

長田委員

基本的にプラン2021を踏襲する形で、現状を踏まえて、何かプラスアルファできることはないだろうかという意見をまとめていくということでよろしいですね。

川野議長

はい。

事務局

たしか1,000人強が回答したアンケートだったと記憶しています。他にも様々な意見があり、資料には生涯学習に関連する施策分野だけを引っ張ってお示ししています。先ほど議長からあった、ニーズ把握に今あるものを利用するという意味では、今回、次期プランのためのアンケートは行いませんが、このアンケートに引っ張られることも必要ないと思います。ただ、一部の方はこういうことを考えているということで、ご一読していただければ十分な資料ということでよろしくをお願いします。

川野議長

今、地方創生策も含めて地方対策をしている内閣府では、2040年ということをものすごく言っています。今から20年後です。それはなぜかという、団塊の世代が90歳を迎え戦争体験者もいなくなる等、社会のいわゆる継続性、サステナブルじゃないですけども、切り替わるポイントが2040年と国は見ているのです。今は高齢化率が30%弱ぐらいですが、20年後は日本の高齢化率は40%になってしまう。大学では学生たちに「君たちが年を取るときには2人に1人は高齢者になっている」と言うのだけれども、全然実感がないみたいです。そういったことを、我々地域人が少し議論をして、藤沢市らしさを出していければと思っています。

それでは、時間も来ましたので、グループワークをお願いします。

[グループワーク]

事務局

グループワークの時間を1度ここで終わりにさせていただきまして、全体での共有の時間に移りたいと思います。

一番目のグループからよろしくをお願いします。

西村委員

最初に出てきたのが感染症対策ということで、新型コロナウイルスだけではなく、これから様々な感染症が世の中に出てくる可能性がある中で、現在、中止になっている文化的行事、交流とか体験といった、実際に人と会って対面して行う事業をどのような形でこれから進めていけるのか、ということが話題に出ました。参加する側の意識もばらばらではあるけれども、事業や活動は1度やめてしまうと再開することが非常に難しいので、継続していくためには、大まかなガイドラインが必要であるという意見が出ました。

また、感染症対策の中で、オンラインの長所と短所という話が出ました。例えばその場所に行くための時間が減ったりとか、出かけるための身支度を整える時間が減ったりとか、時間的なロス回避するという意味では、オンラインはかなり有効な手段になります。ただ、オンラインは人との接触感がない中で、人との関わりはただ顔を見ればいい、というわけではなく、そこで人肌に触れるとか、息を感じるというのが生涯学習、あるいは社会を形成していく上で大事なもののなので、その辺についてどんな対策

ができるのだろうかという話で終わりました。

あとは、スポーツの世界でも、接触が多いスポーツとそうでないスポーツがある中で、今現在、特に競技スポーツについては始まっているものもあれば、接触型については先に進んでいないものもあるという話も出ました。

後半はITについての話題となり、若者から高齢者まで、みんなITが使えるような施策が必要になってくるのではないかと、また、高齢者だからITが弱いというわけではなく、若者だからITが強いというわけではない、というように本当にばらばらで、90代の方がスマホを自由自在に使っているケースもありますし、一方で、若者がスマホは使えるけれどもパソコンは使えない等様々だと思うので、IT機器を全世代が年齢層関係なく使えるような施策も必要になってくるのではないかと思います。

最後に、全体をコーディネートしていく人たちが必要になるのではないかと話が出たところで、時間切れになりました。

山田委員

こちらのグループでは、三宅委員が公民館の立場から話を切り出していたので、公民館事業の話から、越委員の子どもたちのためにつながる会の話も含めて、公民館利用の状況から話を展開していきました。公民館を利用されている方の高齢化が進んでいる背景があって、そこから予約の方法の話も出ました。

また、公民館事業を実施すると小学生の参加が多いことから、比較的人とつながりやすいという話も出ました。

あとは多様性の話で、最大公約数的な利用ではなくて、バンドなどの音楽活動やパソコンが使える空間等、もう少し特化して使えるということも考えられてもいいのではないかと話も出ました。

人とつながるとい話では、先ほど西村委員のグループからも出ましたが、ICTに関しては、人と接触しないというところを選ぶがために、その仕組みに依存する傾向が出ると、地域で集まる公民館事業の強みを生かしづらくなるのではないかと思います。あくまで前提としては、地域に公民館があって、そこに集う人たちと顔を合わせるから、会えないという状況があっても、ICTを活用することによって動きを止めないようにすることができる、そういう視点で考えていくということが大切なのではないかという話になりました。

西尾委員

まずは、資料No. 1にあるマルチステージの人生ですけども、いい学校に入って、いい会社に入ってという意識が以前よりは少しずつ減っているけれども、まだまだ根強く残っているのではないかと話が出ました。そこに関して、高山委員が高校の立場から、生徒に向けて自分自身をしっかり持つ大事さを伝えている、という話がありまして、そこには自己肯定感が大きく関わっていて、自分をどうしていきたいかというところは、人と関

わったり社会と接する中で、自分の価値観を育てていくのではないかという話が出ました。人と接する中で、例えば大人から褒められたりといったちょっとした経験が大事で、その選択肢として、例えばボランティアがありますが、コロナの状況だと、そうした機会も減っているという話がありました。

あと、山内委員もガールスカウトという立場で、幼稚園の年長から高校生までが所属をしているそうですが、自分らしさが活動の一つのテーマになっているという話を伺いました。最近では、オンラインでほかのガールスカウトとの打合せがあるそうなのですが、少し参加率が減ってきているそうです。参加をしなかった方に話を聞いてみたら、オンラインツールに慣れなくて、何となく欠席をしてしまったそうです。新しいものをうまく使えなくても、ガールスカウト自体を嫌いにならないでほしいという思いがあるそうです。

また、オンラインにはメリットもあり、今まで関わりが持てなかった層に情報が届けられるいい機会です。例えば、気になるけれども会場に行くまではないというイベントや講演会でも、オンラインだったら参加してみようかなと思う人たちへの間口が広がったというところはあります。

オンラインを使った打合せについては、どういうタイミングで自分の意見を言っているか分からないとか、相手が聞いているのか分からないという感覚も強くあるので、会議を回している側が気を使って意見を尋ねることが必要になってくるという話もありました。

あとは、先ほど最大公約数のお話がありましたけれども、みんなで一律に頑張りましょう、というところは少しずつ変えていく必要もあるのではないかと、例えば現行のプランで、次の年度だけでなく、さらに次の年度の目標まで同じだったりすることがあります。事業を進めていく上で、ここまでできたからもう少し増やしてみようとか、今年はこの原因でここまでいかなかったから、同じ目標でもあえて頑張ろうといった変化、臨機応変さに対応していくことが必要じゃないかという話もありました。

あと、資料No. 1に、IoTとかイノベーションという言葉が出てくるのですが、藤沢のITのレベルが実際どの程度あるのだろうかという質問も出ていました。

最後に、高山委員から、藤沢は県立高校も大学も多くて、教育レベル、文化度はすごく高い市なのではないかという話がありました。あと、NPOも活発だったり、ボランティアも多かったり、人口が増え続けているということがすごくなすげるところで、そういう藤沢の社会教育について考えていく、地域性を考えた上で社会教育をどうしていくかというところで、意識していく必要があるという話を最後にしました。

川野議長

ありがとうございました。

各グループから、話し合いのポイントがたくさん出ました。幾つか共通していることも出ていましたので、整理をしていきたいと思えます。

次の議題に入ります。神奈川県社会教育委員連絡協議会理事会の情報交換議題について、事務局から説明をお願いします。

事務局

今月16日に県の社会教育連絡協議会の理事会が開催される予定で、こちらの理事を務めていただいている議長と副議長にご出席いただく予定ですが、県から、当日、各市町の社会教育委員の間で情報交換を行いたいということで、議題が上がっていると連絡を受けています。

この資料にある議題1、3、4につきまして、皆様の活動分野であるとか、団体の活動について、情報提供いただけることがありましたら、ぜひお話しいただきたいと思っています。その内容を事務局から県に報告をさせていただくとともに、議長、副議長に理事会の場で共有していただくという流れで考えております。

川野議長

ありがとうございました。

議題1について情報提供をしてくださる方がいましたら、お願いします。

瀬戸内委員

社会的弱者と呼んでいいかちょっと分からないですが、外国籍の人たちについてですが、去年はイベントがたくさんあって、そこに外国籍の人を引率して参加することができたのですが、今年はほとんどゼロの状態、なかなか外界との接触が難しい状況になっています。

外国籍の人は技能実習生がほとんどですが、今何をしているかという、家でゲームしているとか、料理しているといったように、つながりが遮断されてしまっている状態で、日本語教室も比較的閉鎖されているところが多いので、日本語の語学力も低下しており、心配や懸念される部分が非常に多いです。

その中で何をしているかという、実は何もできない状態というのがほとんどなのですが、LINEやZoomでやりとりをして、辛うじて個人間ではつながっています。ただ、団体や多くの人たちとのつながりは、会社以外ではほとんどできていない状態です。

川野議長

ありがとうございました。

在日外国人を社会的弱者に含めて、社会的に排除されていないかどうかということだと思うのですけれども、実際に起きたことを報告してもらいました。

平野委員

スポーツは、コンタクトスポーツと離れてするものがあります。ご存じのように、この間、全米オープンテニス大会が行われたり、現在はフレンチオープンが行われていて、離れて行うものは徐々に開催されるようになってきました。それと、レスリングがコンタクトスポーツの最たるものですが、大会が開催されることになりました。感染症対策をしながら大会を行

い、来年のオリンピックに向けて開催をしようとして徐々にみんなの気持ちに向いているのではないかと思います。

川野議長

ありがとうございました。

そのほか、経済的困窮者、ICTを進める割にはパソコンを使えないという方がいらっしまったのではないかと思います。学校現場はどうですか。

窪島委員

学校教育の場では、家庭にWi-Fi等の環境がない家庭に対して、市で貸し出しており、なるべく学習的な格差が起きないように小中学校では取り組んでいるところです。

それから、不登校児童生徒の数がなぜか減りました。明確な数字は今手元にありませんが、全員が顔を出さない少人数登校から始めたところ、学校に行けなかった子どもたちが行け始めたと聞いています。

また、学校給食が非常に大切で、教育委員会と社会福祉協議会とが協力して食材を運んだりということもやっておりました。一応報告という形で情報提供させていただきます。

川野議長

今、幾つか話が出ました。要するに人材です。つながりは大事けれども、つながりをつくってくれるコーディネーターもやはり重要ではないか、それは教育とか福祉に関わらずということですね。

議題2は、事務局で回答できますね。

事務局

はい、ここは事務局で回答しようと思っております。あと議題の3と4ですが、社会教育の実情と課題、あとは社会教育活動について、コロナ禍での影響を踏まえて、皆様でお感じになられていることがあれば、お話しただければと思います。お願いいたします。

川野議長

では、議題3と4は併せて、活動をしていく中で、こんなことがあったということがあればお願いいたします。

山内委員

この質問の回答に当てはまるかどうかは分からないのですが、小さな子どもたちがすごく喜ぶ活動が一つできました。はがき交換というか、友達にはがきを出して返事をもらう。絵でも何でもいい、ということで行っていますが、小学校1年生から3年生に非常に人気があります。もう少し上の子どもたちは、交換日記のようにノートを回すことが今とてもはやっています。ただ、いろいろ問題もあるので、一概にいいと言えるかどうか分かりませんが、子ども達は素直に喜んでいきます。

川野議長

ありがとうございました。

コロナ禍によって社会教育の実情がぐっと変わったということは承知し

て、新しい生活様式に市民全体が合わせていかないといけないということがあって、さっき少し話が出ていましたが、統一感ばかり求めて多様性を認めていかない社会になってしまうと、かえって逆効果になるのではないかという話も出ていました。グループワークの話し合いがすごく参考になりますね。

その他、報告事項ですが、社会教育委員活動の報告はありますか。

長田委員

芸術文化展を行う予定ですが、新型コロナ対策、感染拡大予防のために、入場者の記録を取っています。名前と連絡先、それから手指消毒と検温も実施しています。

川野議長

ありがとうございました。

それでは、その他はいかがですか。何か事務局からありますか。

事務局

特段、連絡事項はございません。

川野議長

それでは、次回の定例会の予定について、事務局から報告をお願いします。

事務局

次回の定例会につきましては、11月2日の月曜日の午前10時から正午までで、会場はこちらの8-1、8-2会議室となります。

また、次回の開催通知と一緒に本日の議事録を皆様にお示しさせていただきたいと思いますので、併せてご確認をいただければと思います。

川野議長

では、今回は11月2日ということで、ご予約をお願いいたします。

それでは、ありがとうございました。お疲れさまでした。

***** 午前11時52分 閉会 *****